

令和4年5月（2022年）No.677

第62回 OMC映像フェスティバル

10月1日（土曜日）に決まる

恒例の大阪ムービーサークル映像発表会は、今年は10月1日の土曜日に決まりました。例年ですと日曜日でしたが、土曜日の方が会場予約が取り易いという事もありました。場所は、いつもの大阪市立中央会館大ホールです。まだコロナ禍の影響下で定員100名と抑えられていますが、昨年の実績からみて問題はないものと考えます。

さあ、発表会の期日と会場は決まりましたが、問題は作品です。7月例会作品までの作品と、課題コンや撮影会コンの優秀作の中から選んで、8月1日（月）のプログラム編成会議に於いて上映作品を決めるのですが、1人1作品の原則のもと、果たして予定の上映時間150分が埋まるのか、という心配が出てきました。まだ3ヶ月近くの日程がありますので、新作とは限らず、各自の自信作を用意して例会にご持参ください。

単独クラブで毎年発表会を開催する事の課題

全国を見渡してみますと、単独クラブで発表会を開いているところは少なくなりました。コロナ禍前までは、毎年秋や春の発表会シーズンになりますとあちこちに祝電を打っていたものが、この一年間、一件にとどまりました。これもクラブではなく個人映写会の物でした。コロナ禍のせいもありますが、これが無かったとしても、高齢化、会員の減少などで単独クラブでの発表会を毎年開催することは難しくなってきたというわけです。

その少なくなってきた中でも、我が大阪ムービーサークルだけでも関西地区の代表として続けていくことが、一つの使命のようにも考えます。そのためにも何をすべきか、どう会員を増やすか、今後の課題です。

会長 合原一夫

5月例会のご案内

- 第2例会；5月19日（第3木曜日）13時～ 課題コン「友」の公開審査日
どうぞ課題をお持ちを、その後は一般作品上映です。
- 通常例会；5月28日（第4土曜日）18時～難波市民学習センターにて開催
フェスティバルを意識して新旧問わず自分の自信作をご持参下さい。

コロナ禍が 観客動員数に影響か

縦断発表会の観客減少を憂う

合原一夫

第40回日本を縦断する映像発表会は、東京の4月22日(金)を最後に全国5か所の発表会が無事終了し、ほっとしているところである。作品の内容的には、どこの会場でもまずまずの評価で、さすが日本アマチュア映像作家連盟の会員さんの作品だと、ご認識頂けたものと良い方に解釈している。

問題は、コロナ禍で会場定員が半分以下に抑えられているとはいえ、観客数の少なさである。大阪の事前申し込み制の処を除けば、すべて先着順に入場制を採っていたがどこの会場も半分にされた定員数でも、まだまだ空席が目立った。

コロナ過が過ぎて定員一杯の入場者が可能になったとしても、以前のような立ち見席が出るような盛会ぶりは夢のまた夢であろう。観客のほとんどが、会社定年を終えたご高齢者で、高齢化と共に来場者も減っていくのは自然の流れであろう。

要は、どうしたら新しい観客層を掴むかである。芳名簿の人数がひと頃の3分の2に減っており、これを増やすには新規に来てもらう人を増やすしかないが、ネット社会の盛んな今日、何か良い勧誘の方法が無いのか、ネットに強い会員諸氏の力を借りたいものである。

4月通常例会レポート

4月通常例会は、なかなか収束が見通せないコロナ禍の中、15名の参加で開催されました。会場利用心得としてマスクの着用など決められた予防策を施しての開催だった。諸規制がなくなり、コロナ禍がある社会での活動をいかに進めるべきかを求められている。今月は、西村光雄さんが作品参加、新しく大久保さんが新加入されるなど新しい動向があり、先月に続き15名の参加であった。

- **運営担当:** 司会 岡本、書記 進藤、YouTube 関係 江村、映写 上総、メモリー記録 江村、受付・照明 宮崎・森下
- **出席者:** 岩井、紙本、岡本、西村(作品参加)、進藤、江村、合原、高瀬、上総、山本、中川、坪井、森下、宮崎、大久保(新入会) 15氏(受付順・敬称略)

◇ 新入会員のご紹介

大久保すみ代 様 東大阪在住 (※詳しくは会員名簿をご参照下さい)

「どうぞ宜しくお願い致します。」

上映作品(今回の書記 進藤氏)

1. 楠の巨木とイブキ 和歌山1 BD
紙本 勝 8分40秒

〈作者コメント〉 和歌山では、大神社(だいじんじゃ)の楠と十禅律院(じゅうぜんりつゐん)のイブキ。そして、十五社を訪ね、楠としては近畿一を誇る巨木に圧倒されました。

〈書記コメント〉 地元大阪府から始まり、滋賀県、岐阜県、奈良県、三重県、今月の和歌山県と巨木シリーズが続いてきました。どの木を見ても、幹の力強さもさることながら枝の増え方と伸び方、表面を覆う樹皮にもその生命力の強さを見ることができる。長い年月にわたり周りの



人々を見続けてきたと表現されるが、この生命力が人間を圧倒している。古木は、支柱や添え木で保護しているものもあるが、張り巡らされた地下茎はどうなっているのかその中を見てみたくなる。今回、「和歌山1」との副題があるのでまだ続きそうです。引き続いて、巨木からその力を貰いましょう。

2. 第32回東大阪市民文化芸術祭

河内音頭「藤十郎の恋」

BD

岡本 至弘

14分20秒

〈作者コメント〉 私は、3月20日に東大阪市民文化芸術祭に、河内音頭の踊りで舞台出演しました。その時の模様をまとめたものです。撮影は、会友の中川会員に協力いただいたものです。カメラは、360度カメラを舞台中央に、客席からは、固定カメラと操作カメラに4Kカメラを使用しました。3カメで撮影したものを編集しました。音調整に大変苦労しましたが、中川会員に協力いただいたお陰で何とかまとめることが出来ました。その成果をご覧ください。



〈書記コメント〉 舞台撮影を始めて行われたものと思います。今回の場合、自分たちの舞台でその展開のされ方が分かっているのだから、カメラ設置の場所と操作者の居場所・目的・狙いが大事だと思います。主目的が、芸術祭参加記録であったものと思います。3台のカメラを使われているので、歌手や楽師と同じように踊り手一人ずつの表情も撮っていると喜ばれたのではないかと思います。また、参加仲間の記録と、例会作品は別に編集されると良かったのではないのでしょうか。例会作品としては、踊り手の真剣さは良く分かりましたが一演目で14分20秒は長くなってしまいます。

3. カトマンズの若い世代 BD(DVDから変換)

西村 光雄

8分54秒

〈作者コメント〉 ネパールは、中国とインドに挟まれた最貧国である。この国では子供も大半が小学校を中退して働いて家計を支える。彼らの仕事、報酬、心情等を取材して制作。どういう境遇にあっても挫折しない強さに感動しました。最近ネパールの友人に聞きましたが、資源も産業も無い小国なので、子供たちの置かれた状況はあまり変わっていない様で残念です。



〈書記コメント〉 西村さんがネパールに良く撮影旅行をされていると伺っていましたが、この若い人たちの眼差しを見ると確かに行ってみたいくなる。働いた報酬や日々の生活の仕方は大きく異なるが、人々に落ち着きのようなものを感じる。インタビューに応じて、将来輸出関係の仕事がしたいという希望に胸を打たれました。今の生活をより良いものにしたいという、おとなしい言葉の中に強い心意気を感じました。また、軽快なテンポよく展開される西村さんの作風を味わわせて戴きました。

4. みちひらきの神 猿田彦神社収穫 BD

進藤 信男

14分

〈作者コメント〉 猿田彦神社と聞くと、皆さん耳慣れた神社だと気づかれています。天照大神が、天岩戸(あめのいわと)に身を隠した時、官能的な神楽を舞って楽しい雰囲気



演出し、天照大御神が何ごとか顔を出したときの舞姫が「天宇受買命」(あめのうずめのみこと)と言われると何となく分かったような気分になる。

各地から集まった「みこし会」などの愛好者が担ぐ珍しい神輿。しかも、多くの女性が担ぐ神輿だ。加えて、この舞姫が芸能の神様として崇められている。お忍びで参拝に訪れる芸能人も多いのだと聞く。それが、この猿田彦神社祭神の妻なのです。神嘗祭、新嘗祭という二つの収穫祭に、神輿を出すというところまでは分かったのだが……。こんなことを思いながら、神話の世界につながる祭りを見るのも面白いのではないだろうか。

5. 北山 鹿苑寺(ろくおんじ) BD
江村 一郎 7分

〈作者コメント〉 通称は金閣寺と呼ばれる北山鹿苑寺。その雪景色を一度撮ってみたいと思っていた。から振りをしたくないので金閣寺ライブカメラで確認してから行ったので10時過ぎだったが多くの人で賑わっていた。昭和25年に焼失したが世界遺産登録にも登録された京都を代表する建築を堪能してきました。



〈書記コメント〉 良い時に撮影されました。建物、苑内庭園、降る雪。どれを見てもびったり。ただ、7分でこの雪の金閣寺のイメージをまとめるには、あまり参拝客はいない方が厳しさが出ると思います。テロップは、例えば右下に小さい文字表示にした方が映像が生きだしてくるのではないのでしょうか。現実の姿として捉えた、良い作品になっていると思いました。

6. 大台ヶ原紀行 DVD
合原 和夫 11分45秒

〈作者コメント〉 大台ヶ原に一度は行ってみたいと思っていたとき、寝屋川映像在籍中、撮影に行こうという事になって一泊撮影会に参加した時の作品。私の山の作品としては、国内編ではこれ位しかない貴重編。山と云っても定期バスで頂上近くまで行けるので登山とは言えないが、私にとっては、千米を超す山からの雄大な眺めは印象に残っている。結構アップダウンの道のりであったが、山でしか味わえない自然の良さを満喫できた思い出の撮影会作品である。撮影は、1984年(昭和59年10月)だから、あれから38年が立つ。

〈書記コメント〉 大台ヶ原山は、奈良県吉野郡上北山村と川上村および三重県多気郡大台町に囲まれた東西5 kmほどの台地状大台ヶ原(おおだいがはら)山と呼ばれ、東側の沢登りで知られた大杉谷とともに山岳愛好者にとって一度は行ってみたいところ。日本100名山の一つでもある。とりわけ、1961年(昭和32年)開通したドライブウェイにより作者の言葉のように山上駐車場までは行きやすくなった。その少し前、1959年の伊勢湾台風により森林被害が多く、作品中に見られたように西大台での倒木や豊かにあったコケも減少する被害が大きかった。この撮影時期は自由に入山できたが、今は一日の入山人数制限が行われているのでタイミングが良かったです。三角点がある「日の出ヶ岳」付近から東に見える熊野灘、東大台につながる正木ヶ原、牛石ヶ原、大蛇ヶ原(だいじゃぐら)は雄大な景色を味わうことができ、大阪にいる私達には今も変わらぬお勧めの山、憧れ山??に違いない。



7. 壬生の春

BD

高瀬 辰雄

12分

〈作者コメント〉 壬生寺には、3000体の石仏が安置されている。また新選組とゆかりのある寺で、近藤勇の墓などがある。そのほか水を掛け祈ると一つの願い事が叶う水かけ地蔵やお釈迦様の花まつり・・・満開の桜の花と、これらをマッチングさせ、そしてラストは大念仏狂言でまとめてみました。なお大念仏狂言は撮影禁止となっていますが、これは壬生寺の依頼で撮影した時のものです。

〈書記コメント〉 一つの寺院でこれだけの見せ場をつくる・発見する。石仏にはじまり、新選組、地蔵様、桜の花から壬生狂言へ。それぞれのシーンにマッチしたカットに無駄がないように感じました。

ジーンとくる本尊地蔵菩薩にまつわるいくつかのカットだけでなく、数々の石仏からはじまり、壬生狂言演目の始まりである炮烙割り、大江山の鬼退治に通じる土蜘蛛の演目まで、12分間作品の中で壬生寺を存分楽しませていただきました。



8. 大美野住宅開発

BD

上総 秀隆

4分31秒

〈作者コメント〉 昭和初期に開発された住宅地「大美野」（堺市東区）の歴史や現状を当地の住民でもある川上浩さんが講演した。

〈書記コメント〉 昭和初期に、堺ではこんな開発があった。室町時代から栄えた環濠都市「堺」は、豪商の屋敷や蔵、窯の遺構など遺跡となって眠っているものが沢山ありそうです。この住宅開発も、これらの基盤から生じた先取の心意気を思われます。

ただ、記録から作品への昇華。見てもらいたいのは誰か、どんな環境で見てもらえるのかなどから、シーン構成を組み立てられるともっと訴えられるのではないかと思います。



9. あまの街道 春

BD

山本 正夢

8分20秒

〈作者コメント〉 私が週一度は行く近所のウォーキングコースです。春は桜、秋は紅葉と一年を通じて楽しめます。

〈書記コメント〉 西高野街道と今熊地区で分岐し、天野山金剛寺へと向かう道は、天野街道と呼んだとありました。古墳時代から平安時代まで利用された500年間「須恵器」の一大産地が陶器山。その後、尾根道は「金剛寺への参詣道」としてよみがえる。千年の時間を掛けて森を作り、参詣者に木陰を提供した街道。平成7年、10kmの天野街道の内、往時の面影が残る3.5kmを整備して『あまの街道』と名付けられました。こんな説明に納得する映像でした。奈良の都が形成されていく過程を彷彿とする、古い都ではありますが京都にはない趣・景色でした。道端の地蔵さん、佇む寺院の建物にその重さを感じるものでした。



10. 360 度映像編集と

2022 年造幣局の通り抜け

BD

中川 良三

13 分 22 秒



<作者コメント> 今年は3年ぶりに造幣局の通り抜けが開催される。ただ、予約が必要で誰でもが好きな時に行ける状況ではなかった。予約日の最初は雨の予報であったが、幸い曇りになり雨は回避できた。入場制限しているので、人出は多くなくゆったりと見物できたのは良かったと思う。

360° カメラで撮影したので、編集の方法を皆さんに知って頂く、いい機会と思い最初に編集手順を紹介したが、理解して頂けると有難い。

<書記コメント> やはり、明らかに目的が異なるものは分割した方が分かりやすい。初めの編集手順では、二つの作業があるのは分かりましたがそれぞれがどんな目的なのか理解するのは難しい。そして、今回説明の次にどんなことをするのかが分かると随分理解の助けになるのでは……。初めてカメラを紹介されるときのも、今回のものを統合して入門編にまとめるとこの 360° カメラ経験のない方にも理解の助けになるのでは……。

視野の広いカメラ映像なので、ひとつの画面に多くの要素が含まれ、注目してほしい場面の表現には独特のやり方があるようです。また、比較的長いカットを多用されていますが、このカメラ映像だけで構成するときも、短いカットを利用して歪みのある部分は思い切って削除すると落ち着きがある流れの組み立てに役立つのではないのでしょうか。広い画面のなかに、従来のカメラではとらえられない画面・フレーム構成を見ることも出来ましたので、別途手当されている 4K カメラ映像とのミックスした作品を見たいくなりました。新しい映像機器やソフトウェアにチャレンジされている。従来になかったアプローチだけに、手探りのところも多いとは思いますが新しい表現としてまとめ上げられることを期待しています。

◆ 「ニュース きん5時」

3 4月15日 NHK 総合テレビ放送の録画

先月会報でお知らせしていた、合原会長の記録映像「1970 年大阪万国博覧会開催時の模様」とそれに基づいたインタビューなどの録画映像をあらためて映写・視聴しました。番組の中から該当部分を抽出して約7分間の上映。

取材の時は、手際のよい撮影やインタビューの取り組みを見ましたが、放送では、取材事項について映像の中での取り扱いなど、テーマのストーリー構成の仕方が参考になりました。当時、合原会長の自宅で盛り上がっている万博ムードは大変なものであった、こんな感じも伝わりました。

<あとがき>

ウイルスの変異も繰り返され、コロナ禍が長くなってきました。ひたすら、従来のような社会状況に戻ることを期待していましたが、インフルエンザ並みにコロナとの併存社会が当然のように話題になってきました。会員皆さんの作品も、新しい撮影行の困難さは続いています。そんな中で新作を作る試みも増えてきました。日本を縦断する映像発表会も、「苦労があったが久しぶりに5か所全ての会場での開催ができた」と伺いました。撮影から編集、映写などの発表方法も、従来と異なったものを目指す必要性が出てきているのではないかとも思われます。

一方、1年ずつ留まることなく確実に進んでいく自分たちの年齢がありますが、生涯現役といわれた先輩たちの言葉に励まされチャレンジする事だけは忘れずに頑張っていきたいと願っている昨近です。(進藤)

